

変化、ニーズへの的確な対応

今やるべきこと、できることを着実に

基本方針

- 1 全国協議会がこれまで取り組んで来た患者支援活動、ドナー支援活動を一層充実させます。
- 2 全国のネットワークを活かして真に機能する骨髄バンクをめざすとともに、社会的な理解を広める活動を強化します。
- 3 ネットワークの力を一層発揮できるよう、組織運営の充実を図ります。

具体的方針

1 患者支援

- (1) 白血病フリーダイヤルの相談員の募集と育成を行い、より充実した相談活動を目指します。
- (2) 冊子「白血病と言われたら」改訂版を早期に発行します。
- (3) 「佐藤きち子患者支援基金」を積み増すとともに制度の周知を図り、患者の経済的負担の軽減に努めます。
- (4) 遠隔地の医療機関に通院する患者のために、ノースウエスト航空のチャリティマイルチケットの提供を実現できるよう研究を進めます。

2 ドナー支援活動

- (1) ドナー候補者の不安を軽減するため、ドナーサポートダイヤルの周知を図り活用を促します。
- (2) ドナー向け小冊子を活用し、骨髄提供についての理解を深める支援をします。
- (3) ドナーが提供しやすい環境を整えるため、ドナー支援の方法を研究します。

3 普及啓発活動

- (1) 全国協議会ニュースを毎月発行し、最新の情報を発信します。
- (2) 骨髄バンクの啓発活動のためグッズを作成し提供します。
- (3) 「あやちゃんの贈り物展」や「マモのメッセージ展」などの開催を推進します。
- (4) ホームページの一層の充実を図ります。
- (5) 家族や職場向けの普及啓発方法を検討します。
- (6) 会長の講演会や事務局を訪れる学生への対応など、若年層への働きかけを積極的に行います。
- (7) その他、骨髄バンクの普及啓発に有効と思われる活動を研究し実行します。

4 提言・要望活動

- (1) より機能する骨髄バンクを実現するため、国や骨髄移植推進財団、日本赤十字社など関係機関に対し請願要望活動を行います。
- (2) 企業や医療機関など周辺環境整備のため、必要に応じて提言や要望を行います。

5 関係機関などとの連携

- (1) 骨髄移植推進財団や日本赤十字社、日本さい帯血バンクネットワークなど、関係機関と連携を図り、必要に応じて共同事業を行います。
- (2) 「箱根駅伝」、「バイシクルライド」をはじめ、協力団体や地方自治体、企業などが開催する事業での普及啓発活動などに積極的に参加します。

6 加盟団体との相互協力

- (1) 全国協議会の活動を決定、運営するために、通常総会と理事会を行います。
- (2) 必要に応じて各種の実行委員会や小委員会、代表者会議などを行います。
- (3) ブロックセミナーを開催して、ブロックごとのネットワークを堅固なものとし、運動体としてより発展できるように支援します。
- (4) 普及啓発グッズや機関紙などを加盟団体に一定数助成します。
- (5) 財政的にひっ迫している加盟団体には、一定の手続により会費の減免など財政的な助成を行います。
- (6) 加盟団体を通じて得られた寄付金や協賛金などは、その都度協議により、加盟団体にその一部を助成金として拠出します。

- (7) 理事会の議事録速報版を発行し、加盟団体との情報の共有を図り、活動の充実のために相互に提言を行います。
- (8) 最新の情報を会員に提供できるよう、関係機関の会議の傍聴や学会への参加などにより、常に最新情報の収集に努めます。
- (9) メーリングリストを活用しスピーディな情報提供と活発な意見交換の場を確保します。

7 財政基盤の強化

- (1) 財務運営の分析・見直しを行い、個別事業のコスト管理を強化します。
- (2) 事業・組織の効率的、効果的運営のため、ボランティア事務局員の活用を図るなど事務局機能を強化します。
- (3) 活動資金調達のため、以下の活動を行います。
 - ア 「白血病患者支援基金」の募金箱の設置を積極的に呼びかけます。
 - イ 機関紙などへの広告を募集します。
 - ウ 賛助会員を募集します。
 - エ 事業ごとに協賛を募るとともに、一般寄付の呼びかけも行います。
 - オ 各種助成金に応募します。
 - カ その他、各種イベント会場での募金活動などを行います。

8 その他

上記1から7までに掲げたものの他、患者やドナー支援の充実、骨髄バンクの発展のために必要と思われる事業を行います。